

【修士論文】

- (1) 修士論文は、当該専門分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。
- (2) (評価基準) 修士論文は以下の各項目について、当該専門分野における十分な水準を満たさなければならない。
 - (a) 研究課題(テーマ)の学術的意義
明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。
 - (b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。
 - (c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。
 - (d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。
 - (e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。
 - (f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。
 - (g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。
 - (h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。
- (3) (論文の体裁) 修士論文は、論を展開する上で、各専門分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

【課程博士論文】

- (1) 課程博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すものでなければならない。
- (2) (論文提出のための条件)
 - (a) 課程博士論文の準備として、2年次の前期 Semester 開始時に「博士論文作成計画書」を論文指導教授に提出しなければならない。その題目及び指導教授の一覧は後期博士課程教授会で報告される。
 - (b) 課程博士論文を提出するためには、既発表論文2篇(うち1篇は査読付き学会誌・専門誌に掲載されたもの)以上の研究実績を有しなければならない。
- (3) (評価基準) 課程博士論文は以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を満たさなければならない。
 - (a) 研究課題(テーマ)の学術的意義
明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。
 - (b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。
 - (c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。
 - (d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。
 - (e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。
 - (f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。
 - (g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

(i) 当該専門分野への学問的貢献

当該専門分野における研究の発展に貢献しうるものであること。

(4) (論文の体裁) 課程博士論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、300 枚から 500 枚程度の分量がなければならない。

(5) (その他) 課程博士論文執筆にあたっては、論文指導教授より十分な指導を受けなければならない。なお各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。

(付記) 課程博士論文を提出せず単位修得退学する学生は、退学時に 100 枚程度の「博士論文準備報告書」を論文指導教授に提出することとする。その題目及び指導教授の一覧は、後期博士課程教授会で報告される。ただし、「博士論文準備報告書」を査読付き学会誌・専門誌掲載の論文で代替することができる。

【論文博士論文】

(1) 論文博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、当該専門分野における主導的研究者としての能力を示すものでなければならない。

(2) (評価基準) 論文博士論文は以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題 (テーマ) の学術的意義

明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

(i) 当該専門分野への学問的貢献

当該専門分野における研究の発展に貢献しうるものであること。

(3) (論文の体裁) 論文博士論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、原則として 500 枚以上の分量がなければならない。

(4) (その他) 各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。